



世界自然遺産小笠原諸島の保全管理に関する
主な取組の状況

令和6年度 第1回 小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議
令和6年9月18日

兄島の陸産貝類の絶滅回避と個体群維持、回復を目的に外来ネズミ対策を実施。

クマネズミ

固有の陸産貝類を食害するなどして生態系に被害を与えている



（左写真）
クマネズミより食害を受けたカタマイマイ属の殻

（右写真）
オカヤドカリなどの侵入を防ぐための高床式バイトステーション

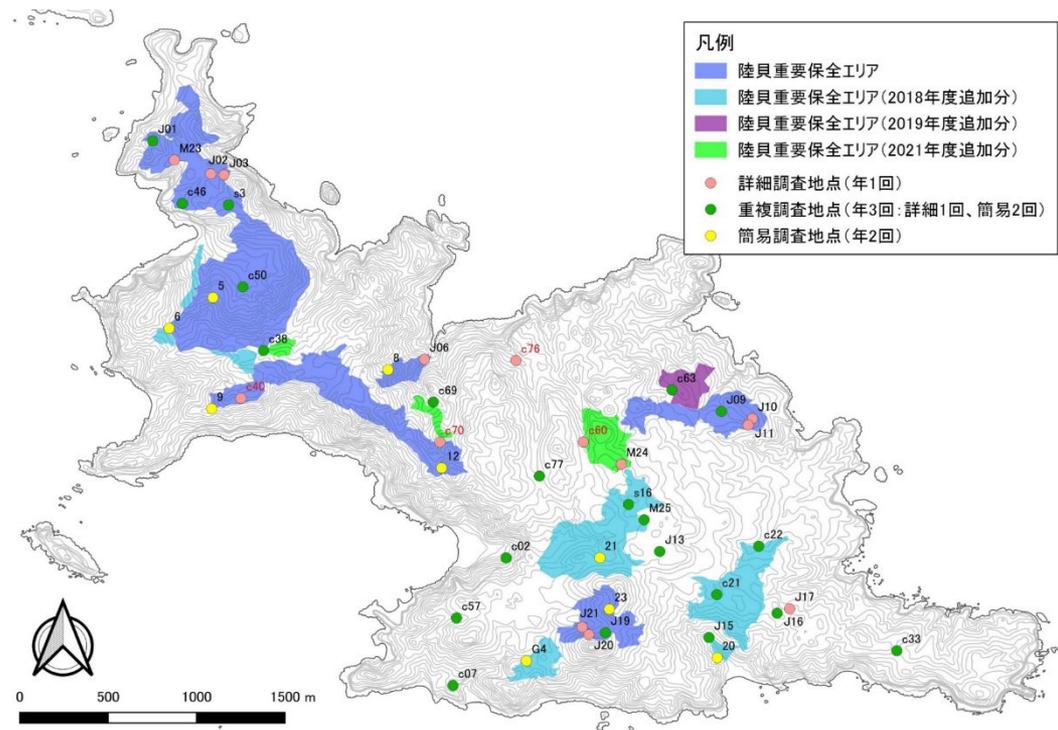
対策の経緯

- 2010.2 ヘリによる殺鼠剤散布
- 2012.6～ センサーカメラによるモニタリング
- 2012.9 クマネズミ再確認
- 2015.2～ 保全エリアを選定しカゴ罠での捕獲
- 2015.8～ カゴ罠からバイトステーション（BS）を用いた駆除に切替え
- 2016.8 ヘリ等による殺鼠剤散布（兄島、瓢箪島、人丸島）
- 2017.7 クマネズミを再確認
- 2018.4～ 重要保全エリアを追加拡張し、BSを増設し、対策を強化
- 2020.5～ 高床式BSに切替を開始

2021.3 内陸部でヘリによる殺鼠剤散布

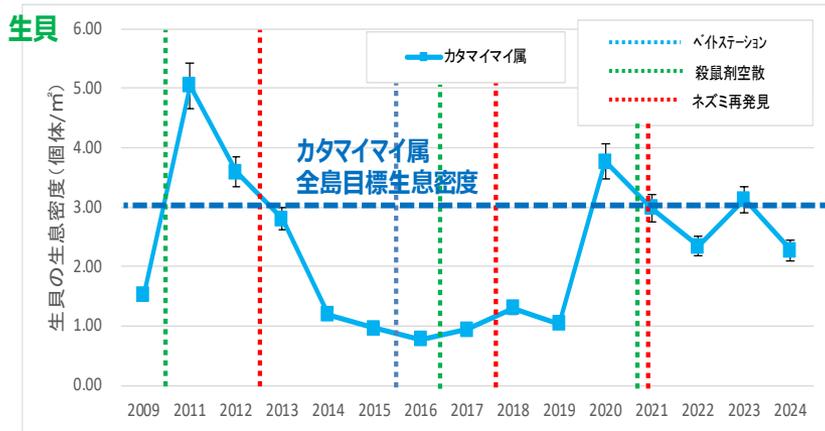
2021.5 クマネズミを再確認

2022.2 重要保全エリアを追加拡張

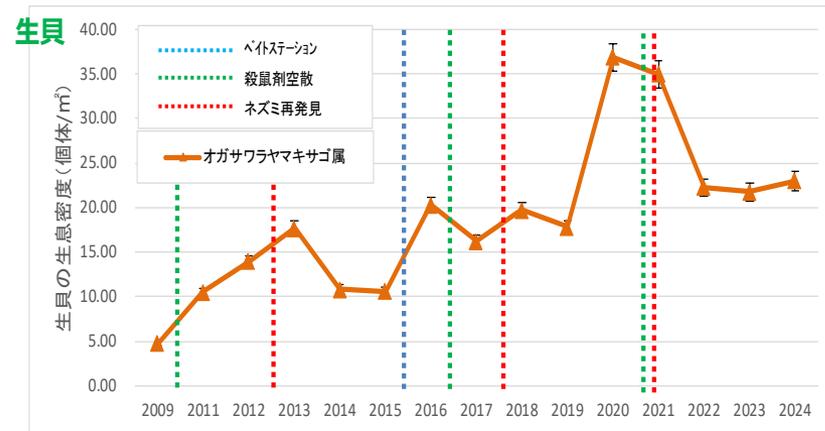


兄島における陸産貝類重要保全エリア、および陸産貝類モニタリング地点

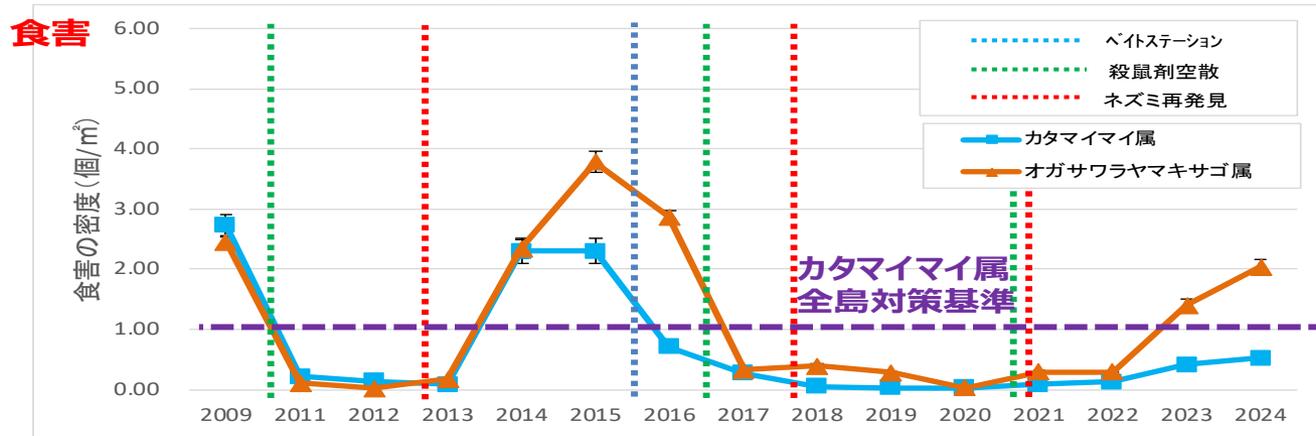
カタマイマイ属の生息密度



オガサワラヤマキサゴ属の生息密度



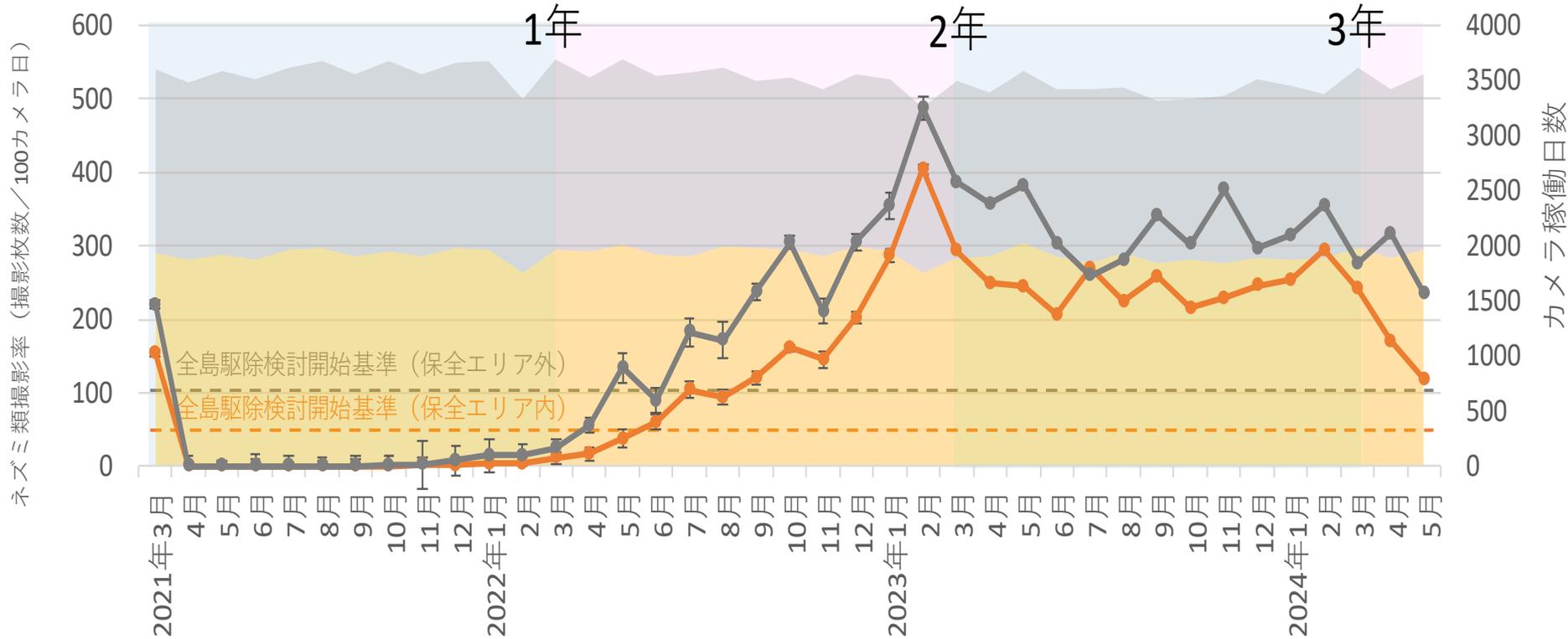
両属のネズミ食害密度



※いずれも兄島全島平均

- 生息密度はカタマイマイ属では回復基調が頭打ちの傾向にある。オガサワラヤマキサゴ属では直近は安定的だが、2020年と比べ低い水準。
- ネズミ食害密度は昨年度に比べオガサワラヤマキサゴ属で大きく増加。カタマイマイ属でも増加しており、食害増加率は2013～2014年の甚大な被害を受けた時期と同程度まで至っている。

センサーカメラによるネズミ撮影率の推移（重要保全エリア内外）



- 2021年3月の殺鼠剤空散により全島的に低密度化に成功したものの、2022年には全島対策検討開始基準を超過し、それ以降も高い値のまま推移。
- いつ陸産貝類への食害が増加してもおかしくない状況が続いている



今年度11月にヘリコプターによる兄島等での殺鼠剤空散による全島対策を実施

⇒9月28日に住民説明会を実施予定

令和6年4月13日 10時ごろ

南島で初めてグリーンアノールが確認された（観光客）

- ① 初期対応（第1次対応）として、東京都事業内で発見地点周辺1メッシュに100トラップ設置（4/20～）
- ② 第2次対応として**管理機関協同**で南島中央部で2130トラップを設置（5/18～6/26）※小笠原総合事務所、IBO、野生研等も協力



トラップによるアノールの捕獲は確認されなかった。

少なくともトラップを設置した範囲において既に定着し繁殖が進んでいる状態ではないと考えられる。

【参考】期間中の混獲

オガサワラトカゲ：約800個体、ヤモリ類：約800個体

現在の対応

- ・アノールの活性が落ちる7・8月はトラップ全撤去
- ・9月19日～5・6月にトラップを設置しなかった島の北部と南西部に300トラップを展開予定。



4月13日に撮影された個体

